

全国協議会 ニュース

2012年4月1日発行
第238号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒101-0031 東京都
千代田区東神田1-3-4
KTビル3F
TEL.(03)5823-6360
FAX.(03)5823-6365
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

歌舞伎で元気のおすそわけ 今年も遠方からの参加あり

2009年度から始まった、国立劇場での歌舞伎公演に患者さんやご家族を招いての観劇会も、今年で3年目になりました。12月の財団の20周年記念大会の会場にて、本企画の告知チラシを配布したこともあり、早くから多くの方々にお問い合わせをいただき、HPの参加者募集には昨年を上回る応募があり、3月6日と9日の両日で20名の方々が招待いただきました。

今年もお席をご用意いただき、皆さんが元気になる機会を作ってくださいました国立劇場のご担当の方々に深く感謝申し上げます。



開場45周年の垂れ幕も掲げられた華やかな中で3月公演は「二谷嫩軍記」。市川團十郎会長が切望しての演目と聞き、心情に訴える演目でもあり、情感のこもったラストシーンは心に残りました。

今年も参加者の中には、市川会長と同じ時期に同じ病院で闘病生活を送っていた患者さん2名が含まれ、闘病を支えた奥様と共に参加くださり、楽屋での会長との面談に、「病院でこそお会いできなかったけれど、

◆藤井佐保子さん(栃木県)

歌舞伎は初めてでしたが、皇居のお堀端という環境の良さに加え、行き届いた観劇施設、そして團十郎さんからの全体を使つての気力溢れる演技に、思わず引き込まれてしまいました。その姿に大いに励まされ、楽しんで頂きました。

楽屋の方でも、にこやかに迎えて下さり、膝を交えて親しく移植のお話も出て、終始なごやかな雰囲気の中、團十郎さんの素顔に接することが出来、大変うれしく思いました。

私方では、次男が2001年5月(当時32歳)に移植。お陰様で今では、社会人として普通の生活に戻っております。時に



は、社内のソフトボール大会を楽しみ、2012東京マラソンにも出場(10km移植の部)無事完走致しました。

◆長谷川誠、敦子さん(三重県)

3月9日、国立劇場様のご招待により、同じ時期に虎ノ門病院に入院していた市川團十郎さんが出演する歌舞伎公演を観劇しました。

團十郎さんの舞台での迫力と華麗な姿に目を見張るばかりで感動と勇気をいただきました。公演後、團十郎さんの楽屋に招かれ、緊張する中、優しく話をしてくださったり、写真を撮ったりと、楽しい時間を過ごしました。

このようなご縁に恵まれたこと大変嬉しく思っています。また、お世話いただいた全国協議会の方々に感謝しています。

給付期間を1年延長 東日本大震災被災患者支援基金

昨年4月から開始した東日本大震災被災患者支援基金も1年を迎えます。これまでに29件498万3965円が給付されました。(3月末現在)

被災地の復興状況や、患者さんを取りまく現状を踏まえ、全国協議会では本事業を1年間延長し2013年3月末日まで行うこととなりました。

一人でも多くの患者さんの手助けができるよう、更なる周知活動を行うと共に、基金の積み増しにも努力したいと思います。皆さま、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

給付を受けた患者さんやご家族のメッセージをご紹介します。

○今回は支援基金の給付をいただき、本当にありがとうございます。病気の子どもを連れた避難生活の中、経済状況も不安定

であったため、大変助かりました。おかげさまで主人の就職先も決まり、安定した生活を取り戻すために日々頑張っております。(福島県双葉郡 Iさん)

○この度は支援基金からの給付心から感謝申し上げます。昨年の12月20日で移植5年目に入りました。大震災では庭先まで波が入りましたが、移植・津波と神様が守ってくれたのでしょうか。患者、家族共々、今は再発しない日々が過ごせるようお願いしております。(岩手県大船渡市 Kさん)

○移植後7ヶ月が過ぎ、順調に回復しております。収入がない中、給付金を診療費等に使用させていただきます。本当に助かりました。(福島県大沼郡 Wさん)

東日本大震災被災患者支援基金

2月21日～3月20日(合計7,945,624円)

嶋津 桂子	現金	3,000円
移植者フットボールクラブ	現金	8,500円
(敬称略)		

給付件数累計 29件 合計4,983,965円 (3月末)

基金積み増しにご協力ください

●郵便振替(通信欄に震災支援と記載)
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
00150-4-15754

●銀行の場合
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951

今年も東日本大震災・骨髄バンクチャリティイベント

FITNESS FESTA 2012「ゴールドジムスクール発表会」今年もゴールドジムスクール発表会の様子をお伝えする季節になりました。3月11日、品川区総合区民会館「きゅりあん」(東京)にて各店舗から47チームが参加し、日々の精進の成果が披露されました。

延べ2千人を上回る来場者の前で、若男女の生徒さん達によって、舞台狭しと力いっぱい、

発表会当日は、東日本大震災から丁度1年目にもあたることもあり、「今年も骨髄バンクと共に、被災地への支援も行う!」という呼びかけのもと、各店舗にて募金が集められたそうです。



また大谷前会長が座長を務められた「造血細胞移植における



みんなでこいへ!! 青森さこいへ!!

(皆さんでおいで下さい 青森へおいで下さい)

2012全国骨髄バンクボランティアの集いin青森

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害となりました。あの日から1年が過ぎた今もなお、精神的にも経済的にも厳しい状況に置かれている東北地方ですが、今年の「全国骨髄バンクボランティアの集い」は青森市で開催致します。

テーマは、「つなげよう・伝えよう いのちのメッセージ」です。突然襲いかかった自然の猛威と私たちが関わっている病気の中に、重なりあうものを強く感じます。天が与えた試練で命の尊さを深く知り、そして伝えていかなければならないメッセージを青森から届けたいと思っています。全国からたくさんの皆さんに参加していただき、感動と笑顔の輪を広げたいと思いますので、是非青森にお越し下さいますよう、スタッフ一同お待ちしております。

- 日時 2012年6月2日(土) 13:30~17:30
 - 場所 ホテル青森 孔雀の間 (青森県青森市堤町1丁目1-23)
- ※翌3日には総会・代表者会議が開催されます。
詳細は全国協議会のホームページでお知らせします。

第34回日本造血細胞移植学会での広報活動

2月24、25日と大阪で開催された学会に全国協議会として従来同様のブース展示と、今年は、「東日本大震災に関連した血液疾患患者支援活動の紹介」と題して口演報告しました。震災直後の4月に立ち上げた被災患者支援基金がこれまで26件の給付実績があること(発表時点)、全国各地でも基金積み増しの協力を得ていることなどを中心に紹介しました。座長の関西地方の医師からは、ご自身の体験から阪神大震災を経験した血液内科医として、我々の活動に賛同を表明して下さり、緊急時の移植医、学会の在り方などについてもコメントいただき、ポスター発表だけでは得られない貴重な討議も出来ました。

また大谷前会長が座長を務められた「造血細胞移植における

不妊対策」と題するセッションもあり移植後QOLに関する活発な討議もされました。ブース展示においては、神戸骨髄献血の和を広げる会のボランティアにも協力いただき、被災基金の紹介、全国協議会の案内など多くの学会参加の医療関係者にアピールすることができました。(三田村)

感謝しております。皆さまからのご寄付、大切に活用させていただきます。どうもありがとうございました。

ブロックセミナー報告

●東北ブロック

3月3日(4日)、ホテル白萩(宮城県仙台市)で開催し、41名の参加者がありました。

冒頭、東日本大震災被害者への黙祷で亡くなられたボランティアを追悼しました。次いで東北各県から活動状況と問題点の報告があり、活発な意見交換がなされました。各団体とも啓発行事や登録会への対応も様々で、考えさせられる面が多々ありました。全国協議会からは、「東日本大震災被災患者支援基金」の説明と新潟県加茂市の「骨髄移植ドナー支援事業」の紹介がなされました。懇親会では、来賓の地元・県業務課長と血液センター所長も参加しての交流が行われ大いに盛り上がりま

●北海道ブロック

3月10日、北海道立道民活動センターにて北海道協会・小樽推進会・釧路協会・苫小牧推進会・函館協議会の加盟5団体30名の参加で開催されました。前半は、全国協議会のこれから進む方向を学ぶために、野村副会長を講師に招き、08年の札幌全国大会にて造血細胞バンクの将来像検討会議答申が報告されて以降の、さい帯血バンクの動向、法制化の動きなどの現状を勉強しました。後半は、そうした社会環境と各バンクの現状に対する全国協



心からのご寄付に感謝申し上げます

2月21日～3月20日

㈱THINKフィットネス (ゴールドジム)

飯島 孝枝	現金	372,038円
鈴木 純子	現金	2,340円
飛田 行康	現金	1,340円
塩谷 圭	現金	10,000円
阿部 ミホ	現金	2,000円
見玉 知之	現金	10,000円
関 朝之	現金	5,000円
花田学園	現金	2,000円
木村 千加子	現金	50,000円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
イオンマリニピア専門館	現金	1,500円
めん処英喜家 三島店	現金	3,000円
めん処英喜家 本店	現金	6,878円
嶋津 桂子	現金	5,154円
安東 慎次	現金	3,000円
峯 カズミ	現金	1,127円
●佐藤さち子患者支援基金		
古賀 聡子	現金	2,000円
竹田 幸子	現金	3,000円
トリイミユキ	現金	5,000円
	現金	10,000円
		(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

議会の実情が報告され、我々加盟団体の役割は、全国協議会の活動を支え、事務所経費を分担することであり、会費負担が全

共催イベント 北から南から

横濱での医療講演と相談会



3月3日、神奈川県総合薬事保健センター(横浜市磯子区)で神奈川県主催、再生つばさの会・神奈川県骨髄移植を考える会共催の医療講演会と個別相談会が開催されました。この会は血液疾患の機序から最新治療までの知識が得られること、セカンドオピニオンの機会として

行で個別相談をしていただきました。講演会は入場者69名とほぼ満席、個別相談は1人20分の持ち時間で19名の予約がありました。皆さんが熱心に講演に耳を傾ける様子、一秒も惜しんで相談する様子に、このような会の必要性を強く感じました。(阿部)

医療講演会参加レポート 東大医科附属病院 第14回市民公開医療懇談会 「貧血といわれたら、赤血球のお話」

この回のテーマは、血液検査の異常で一番多い貧血のお話で、血液腫瘍内科教授 東條有伸先生による講演でした。血液中には、酸素を運ぶ赤血球、細菌やウイルスと戦う白血球、細菌やウイルスと戦う白血球、出血を止める血小板に大別される血球が存在します。この中の赤血球が足りなくなるのが貧血です。赤血球中の鉄分は酸



2月25日和歌山ビッグホエールで、ソフトテニスの大会が開かれ、その会場で、地域のボランティアとして、骨髄バンクの広報活動を行いました。前日から準備にボードを運んだり、配布資料を持ち込んだりと一人では大変と悩みましたが、会場準備にいられたら、高橋生のお手伝いで、無事準備が完了しました。「何をやるの?」と聞き協力してくれる素直な高校生には感謝と感動がありました。当日は、開場前から沢山の方

各地のり お寄せください

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

素をくつつけて、各組織に酸素を運ぶ役目をします。血液中の酸素濃度は、腎臓がセンサーとなって、酸素不足を感知すると、エリスロポエチンを出します。この指令を受け、骨髄が赤血球を生産し、120日位の寿命で脾臓において破壊されているとのこと。したがって、貧血は腎不全や、骨髄の疾患、慢性疾患等でも起きますが、一番多いのは鉄欠乏性とのことでした。日本人の女性では、約50%が鉄欠乏との調査結果があるそうです。また、特筆すべきは子供の鉄分不足が最近増加し、問題になっているようです。親御さん

3月10日神戸市助産福祉会館で、神戸の会メンバー・近隣ボランティア・日赤献血職員が集結し「神戸骨髄献血の和を広げる会20周年感謝のつどい」が開催されました。



20年の歩みの紹介では、イベ

その時はメンバー仲良しクラブにしたという思いをいただき、感謝・感謝のつどいでした。(神戸の会 森脇)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●日本赤十字社・骨髄データセンター事業の運営体制が変更
平成24年4月から、血液事業の広域運営体制移行に伴い、骨髄データセンター事業についても、これまでの各都道府県単位の事業運営体制から、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行し、骨髄バンクドナーの登録情報に関するお問い合わせ先が変わります。

●ドナー登録者の個人情報、これまで、各都道府県の地域骨髄データセンターで登録管理しておりましたが、平成24年4月から、新たに設置するブロック骨髄データセンターにおいて行われます。

●登録情報に関するお問い合わせは、4月以降、最寄りのブロック骨髄データセンターまでご連絡をお願いします。なお、ブロック骨髄データセンターの所在地や電話番号は、4月以降、中央骨髄データセンターのホームページに掲載されます。

●ドナー登録希望者の登録受付及び検体の採取は、これまで同様、地域骨髄データセンターが実施します。ドナー登録を希望される方は、最寄りの献血ルーム等の登録受付窓口にお越しください。

●ドナー登録者のHLAデータについて
医師から「自分の患者さんが骨髄移植を検討しているが、ご家族が骨髄バンクにドナー登録しているのだからHLAデータを知らせてほしい」という問い合わせがありました。

骨髄バンク事業は、骨髄移植が必要な患者さんの中で「①家族内にHLA型が適合した方が見つからない方、②HLA適合者がいても健康面または社会的条件から提供を受けられない方」にHLA型が適合した匿名の第三者(非血縁者)を結び付け、あくまでも善意から無償で提供していただく公的な社会・医療システムです。

骨髄バンク NOW

ドナー登録者のHLA型検査はその全額が国庫補助金で賄われていること、また、HLA型を公開することで臓器売買等が行われる心配や、骨髄バンクを含め公平な臓器提供の機構そのものが危うくなる可能性があることから、データをドナー登録者本人に知らせない(非開示)ことが基本ルールとなっています。ご家族、主治医にもHLAデータを開示していませんので、改めて医療関係者の皆さまにもご理解いただきますようお願いいたします。

●非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について
下記の施設が新たに認定されました。これまでに認定された施設は34施設です。(採取・移植とも) 日本大学医学部附属板橋病院 血液膠原病内科、小児科

●2月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,607人、献血併行型集団登録会/1,688人、集団登録会/13人、その他/64人

●日本骨髄バンクの現状(平成24年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,819	3,372	405,525	534,274
患者登録者数	227	239	3,021	35,108
骨髄移植例数	108	104	-	13,925
20歳未満ドナー登録者	-	202	17,026 ^{*1}	-
51歳以上ドナー	264 ^{*2}	143 ^{*3}	26,482 ^{*4}	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月 ~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月 ~